

令和8年度地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会協議録

1 会議の概要

(1) 開催日時 令和8年7月30日(木) 18:58～20:15

(2) 開催場所 府中市保健福祉総合センター 3階会議室

(3) 出席者

会場参加:

委員長 内藤 賢一 副委員長 石原 広一

委員 石村 泰宏

WEB参加:

委員 安達 伸生

(4) 欠席委員

委員 前田 嘉信

(5) 説明のため出席した者

府中市病院機構

理事長 多田 敦彦 事務局長 小森 祐一朗

府中市市民病院事務長 八幡 憲和

府中市

市長 荻野 雅裕 健康福祉部長 山路 英利

健康推進課長 宮原 哲也 地域医療係長 榎本 直揮

2 会議の内容

(1) 協議事項

令和7年度の業務実績評価(案)について

(2) 報告事項

令和8年度年度計画について(報告)

~~~~~

山路健康福祉部長(以下「部長」という。): 定刻より少し早いですが、ただいまから令和8年度地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会を開催させていただきます。

18時58分

~~~~~

部長: 私は府中市健康福祉部長の山路と申します。議事に入りますまでの間進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日の評価委員会では、事前にお知らせしておりましたとおり、第4期中期目標

期間の2年目となる令和7年度の業務実績評価案に対して御意見をいただくこととしております。円滑な進行を心掛けてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、委員の皆様の出欠について報告いたします。まず、府中地区医師会長、内藤様、府中市監査委員、石原様、広島県健康福祉局、石村様は府中の会場に御来場いただいております。広島大学病院長、安達様、岡山大学病院長、前田様におかれましては、オンラインでの参加になりますので、よろしくお願いいたします。前田様から、遅れるという連絡がございましたので、御報告をいたします。

なお、昨年8月に開催いたしました評価委員会から委員の変更がございます。広島県健康福祉局医療機能強化担当部長の渡部委員の後任として、同医療機能強化担当部長の石村委員に新たに評価委員となつていただいております。石村委員、一言自己紹介をお願いいたします。

石村委員： 4月から広島県健康福祉局の医療機能強化担当部長に着任しました。県でも、広島県立病院機構を立ち上げましたので、同じ評価委員会をやっておりますので、ここでも勉強をさせていただいて、色々と議論出来たらいいなと思っております。よろしくお願いいたします。

部長： ありがとうございます。会議資料につきましては、会議開催前に一式を送付させていただいておりますこと、また、オンラインで出席の皆様へはメールでも送信させていただいておりますことから、配布内容等の確認については割愛させていただきます。資料に不足がありましたら、議事進行中でも結構ですので、事務局へお申し付けください。

~~~~~

部長： それでは、開会に当たり、府中市長の荻野が挨拶を申し上げます。

荻野市長： 皆様、本日はお忙しい中、地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会に御出席いただき、誠にありがとうございます。

まず、本市の病院機構の運営に係り医師派遣など多大な御協力をいただいております岡山大学病院・前田病院長様、広島大学病院・安達病院長様に心から感謝申し上げますとともに、両大学病院の御関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。また、府中市の地域医療を支えていただいている府中地区医師会・内藤会長様、本市の地域医療に御指導・助言をいただいております、石村部長様、また日ごろから監査委員として病院運営に係る御指導をいただいております石原監査委員様に対しまして、改めまして感謝申し上げます。

さて、全国の公立病院を取り巻く環境を見てみますと、人口減少や少子高齢化の進展、医療需要の変化に加え、医師・看護師をはじめとする医療従事者の確保の困難さ、物価高騰への対応など、依然として厳しい状況が続いております。こうした

中にあっても、公立病院には、救急医療やへき地医療、感染症対応など、地域に必要な政策医療を安定的に提供していく重要な役割が求められています。府中市病院機構に対しても、こうした自治体病院としての役割や地方独立行政法人ならではの機動力、柔軟性を活かした地域医療の提供を求めているところであり、実際に、多田理事長におかれては、医療機能の提供と経済性の両面で成果を上げていただいているところでございます。

地域医療を取り巻く環境は常に変化しております。新たな課題への対応が求められる中で、府中市民病院と府中北市民病院が今後も住民の生命と健康を守る要として機能し続けるためには、患者に寄り添いながらも、経営者の視点も持ちあわせた不断の経営努力が必要でございます。

本日の評価委員会では、府中市病院機構の令和7年度の業務実績等に対する本市の評価案について、委員の皆様から、専門的かつ客観的な視点で御審議いただき、質の高い医療の提供と持続可能な病院経営につなげてまいりたいと考えております。委員の皆様の活発な御議論をお願いいたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

~~~~~

部長： 続きまして、次第のとおり委員長の選任に移りたいと思います。地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会条例第5条の規定により、委員長の選任は、委員の皆様の互選により定めるとされておりますが、如何いたしましょうか。

石原委員： 地域で医療の確保に携わられている府中地区医師会長の、内藤委員にお願いしてはどうでしょうか

部長： ただいま、石原委員から内藤委員をとという御意見がございましたが、皆様いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは内藤先生、よろしくお願いいたします。それでは、内藤委員長に御挨拶をお願いいたします。

内藤委員長： 皆様、こんばんは。前任期に続いて、評価委員長に選任いただきました内藤でございます。委員の皆様におかれましては、御多用の中、また遅くからの会議開催にもかかわらずお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。今回の評価委員会は、令和7年度の業務実績に関する評価に対する御意見や御助言などをとりまとめていきたいと思っておりますので、委員の皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

部長： ありがとうございます。以降の進行につきましては、内藤委員長にお願いいたします。

~~~~~

内藤委員長： それでは、続いて副委員長の選任に移りたいと思いますが、如何でしょうか。

—： —発言なし—

内藤委員長： 特に御意見がないようですので、委員長としましては、地域のことをよく御理解されており、また、前任期において副委員長を務められました石原委員に引き続きお願いしたいと考えておりますが、如何でしょうか。

御異議がございませんでしたので、石原委員に御就任いただくことといたします。  
それでは石原副委員長、一言御挨拶をお願いいたします。

石原副委員長： 引き続き、副委員長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

~~~~~

内藤委員長： ありがとうございます。それでは、これより議事に入ります。撮影はここまでとさせていただきますので、報道関係の皆さんは席にて傍聴してください。

協議に入る前に、今年度の評価委員会の概要について、事務局から説明をお願いします。

宮原課長： 府中市健康推進課長の宮原です。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に先立ちまして、本日の評価委員会の主な内容につきまして、資料1を用いて説明させていただきます。では、資料1を御覧ください。この評価委員会は、地方独立行政法人法の規定に基づき設置を義務付けられた市長の附属機関でございまして、委員構成につきましては、資料に記載しております五つの団体から委員に御就任いただいております。

本日の評価委員会では、資料下段の『令和8年度評価委員会の目的・役割』にまとめておりますように、令和7年度の事業報告について市長が事業実績を評価するに当たり評価の案に対して評価委員の皆様から御意見を頂戴することとしており、皆様に御出席をしていただいているものです。詳細につきましてはそれぞれの議事で説明をさせていただきます。

~~~~~

内藤委員長： それでは、お手元の次第に沿って会議を進めます。次第の「4 議事」の「(1) 令和7年度の業務実績評価（案）について」を議題といたします。

まず、府中市病院機構から業務実績についての説明を受け、続いて事務局から市の評価案について説明を受けた後、委員の皆様から評価案についての御意見をいただきたいと思います。

それでは、府中市病院機構から簡潔に説明をお願いします。

多田理事長： 府中市病院機構理事長の多田と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、資料2の『参考資料1 説明資料』のページをお開きいただきたいと思います。

まず、府中市民病院の医業収益について御説明いたします。

機構が発足してから府中市民病院の医業収益については右肩上がりに上がってきておりました。2018 年の外科医師 3 名が退職したときはかなり落ち込みましたが、その後はコロナ禍という大きな災難にかかる状況ではありましたが、整形外科、それから麻酔救急科、耳鼻科、泌尿器科、婦人科、外科、そして内科の常勤医師を招へいすることができまして、病院一丸となってこの危機に立ち向かい、右肩上がりの医業収益を上げ、そして 2025 年度については、これまでの過去最高額の医業収益を上げることができております。

次のページ、内科につきましては、下に内科常勤医師数がありますように、一時的に増えた時期もあるのですが、約 5 名前後の、非常に少数精鋭で、過去に比べると約 8 割の内科の収入を上げているという状況であります。

整形外科につきましては、2019 年に 1 人体制から開始して、そして 2025 年には 3 人体制となることによって手術数が格段に増え、収入の増加が上げられています。

次のページの下のところ、医業収益に医業費用を重ねますと、残念ながら費用の方が収益を上回る状態で、赤字体制は変わらないのですが、しかしこのグラフの差が徐々に縮まってきておる状況であります。

それでは、次の当期純損失ではありますが、一時大きかったのですが、最近では縮小している状況であります。以前と比べて、2015 年前後とほぼ同じくらいでないかと見えるのですが、この時期に比べるとかなり収益は上がっていますから、その率というのはかなり改善された状況じゃないかなと思います。

一方府中北市民病院につきましては、人口減にもかかわらず、医業収益につきましては大幅な減にならず確保できているという状況であります。しかも医療費用につきましてはいろんな点で頑張って抑えることができ、赤字額についてはかつてかなり大きかったのですが、最近では縮小した赤字額となっていると思います。

それで、最後のスライドのところではありますが、市からの繰入金を入れてということではありますが、最終的な機構の決算額については、2025 年については 2024 年と 2 年連続の黒字。そして機構が始まってから 5 回目の黒字となっております。内容につきましては、後で事務局長から詳しい説明がございます。

それから医療の内容につきましては、3 ページの下から 5 行目のところから始めていきたいと思います。

府中市民病院の医師確保につきましては、令和 6 年度に内科の常勤医師が退職したことから、非常勤医師を派遣していただくことによってかなり助かっております。整形外科については、府中市の奨学金貸与医師が着任したことによって手術が大きく増加して、先程ありましたように黒字化に大きく貢献していただいております。婦人科では、常勤から非常勤体制となったのですが、最近では週 3 日体制というこ

とになり、診療科目によっては常勤医師に匹敵するくらいの回復を見込んでおります。

それから府中北市民病院につきましては、4行目ではありますが、地域医療連携推進法人備北メディカルネットワークに正式に参加しております。

それから業務運営につきましては、府中市民病院では患者満足度調査、接遇パトロールから夜勤の選択制交代、そして当直医師も翌日は帰るというような現状の規定、それから看護補助者の配置、特定看護師の育成、そして健康啓発の公開講座などを行っております。

府中北市民病院につきましては、今年度広島大学ふるさと卒の医師が着任しております。府中市としては初のふるさと卒医師の派遣ということでございます。また、看護補助者につきましては外国人技能実習生を2名受け入れております。

それから、5ページになりますが、病院のそれぞれの役割機能であります。府中市民病院につきましては、救急医療については府中地区医師会の内科系と外科系の休日当番医、そして二次救急病院輪番制病院として機能しております。あと、病床におきましては、急性期、回復期後、慢性期の50床ずつの病床であります。下の表にもありますように、病床利用率はいずれも80%を超えるという状況で、非常に頑張ってきております。また、外来診療については地域で不足する小児科、婦人科の維持に努めております。

府中北市民病院につきましては、府中市北部地域で唯一の一般病床を有する医療機関として維持に努めております。

それから8ページの上のところの、市の施策との連携ということですが、市が実施する生涯に通じた市民の健康づくりのための事業に両病院とも積極的に協力しております。

それから市民の安心を守る医療提供体制ということですが、救急のところは先ほど申したとおりであります。

災害につきましては、BCPに基づく院内システム障害を含めた訓練を実施しております。また、効率的に備蓄も行っており、感染に対しては、新たな新興感染症の拡大に備えて、専用病床に転用可能な病床6床の確保をしております。あと、府中市民病院では、感染症外来に対応するための専用のコンテナを常設しております。

少し飛びまして、10ページの中ほどではありますが、市民から選ばれる病院づくりということで、府中市民病院は患者満足度調査の実施。また、北市民病院は御意見箱を通じて患者さんのニーズとそして不満を把握することに努めております。

最後に、11ページの法人運営管理体制の確立の『(3) 個人情報保護及びサイバーセキュリティ対策の強化』でございますが、個人情報の保護につきましては、法令の遵守取扱いに係る研修を両病院で行っております。サイバーセキュリティ対策

については、システム管理要綱の見直しに取り組んでいくとともに、障害発生時を想定した運用の確認と訓練を行っております。

簡単ではございますが、私からは以上の報告です。

小森事務局長： 府中市病院機構事務局長の小森でございます。続いて私からは、経営成績に関する部分について説明をさせていただきます。

事業報告書の 12 ページ以降が経営成績に関する報告書ですが、ページを戻っていただいて、3 ページに『全体的な状況』、『1 法人としての総括と課題』というところで5行にまとめてありますので、そこを読ませていただきたいと思います。

第4期中期計画の2年目となる令和7年度の経営成績は、経常収支比率 101.7%の目標に対して、市からの繰入金 4 億 7,319 万円と物価高騰対策補助金 4,370 万円、国の医療機関等における賃上げ・物価上昇に対する支援事業補助金 5,095 万円を含めた実績は 101.4%となり、収支計画の 6,700 万円の黒字目標に対して若干届きませんでしたが、5,584 万円の黒字決算となりました。

では、ページを進めていただいて 12 ページの半分より下の方に、『第4 財務内容の改善に関する事項』のところで、その下に『(1) 経営成績に係るもの』とありますが、これ以降で経営成績に関する各種指標に対する計画と実績値を表で整理しておりますので、これはまた見ていただければと思います。

ページをめくっていただくと 13 ページには『(2) 収入確保に関するもの』、真ん中あたりで『(3) 経費節減に関するもの』、14 ページの上にくと『(4) 経営の安定性に係るもの』ということで、それぞれ経営指標に関するものを表示しております。

次に触れたいのは、14 ページの下の方、4 行目のところですが、2 の『計画的な設備投資』というところで、ページをめくっていただいて 15 ページに令和7年度の投資額について計画と実績を表で表しております。両病院合わせて、実績では 2 億 3,900 万円に抑えて、法人の考え方としては、表の上の行に書いてあるんですけども、「中期計画期間中の長期借入金の残高が増加しないように努めてあります。」というスタンスで投資計画を進めております。

次に、15 ページの下の方、2 の『その他の事項に関する数値目標の設定』のところで、『(1) 債務超過の解消』ということで、令和7年度単年度決算では黒字化を達成したんですけども、債務超過を解消するところまでは至りませんでした。債務超過の額については次の 16 ページの上の方に、計画では 3,600 万円あまりの債務超過になるという見込でしたけれども、実績は 300 万円の債務超過まで抑えられている結果になりました。

事業報告の説明は以上なんですけども、他の資料で触れておきたいところがあります。

参考資料 1 の令和7年度財務諸表。まず 3 ページの損益計算書についてここで触

りたいのは、本業は黒字決算でした。北市民病院の4階に、病床だったところを令和元年度にサービス高齢者向け住宅に改修してその運営を行っています。このサービス付き高齢者向け住宅の単体での経営成績を説明しておきたいと思います。この損益計算書の上の営業収益からの中段あたり、『サービス付き高齢者向け住宅収益』ということで、2,035万6,051円という収益でした。費用の方はこの表のちょうど真ん中辺り、『サービス付き高齢者向け住宅費用』ということで、給与費・材料費・経費・減価償却費の合計で、右側の方に1,876万4,352円ということで、サービス付き高齢者向け住宅単体でも黒字化を達成していることを報告させていただきます。

法人の運営で一番気になるのはキャッシュフローの関係なんですけども、5ページがキャッシュフロー計算書になっています。表の一番下のところに、下から2行目が『資金の期首残高』、1億1,900万余りからスタートしまして、令和7年度末、その下、資金期末残高が1億7,000万余りということで、約5,000万余り資金が増えましたというキャッシュフローになりました。

最後に触れておきたいことは、同じ資料の17ページになりますが、長期借入金の状況について説明をさせてください。17ページは『長期借入金の明細』ということで、これは、平成24年に法人がスタートした以降の借入金の表になっております。この一番下のところを見ていただくと期首の残高がありまして、その右の当期増加額1億5,400万余りで当期減少額1億4,780万円余りということで、令和7年度だけ見ると長期借入金が若干増えているということなんですけれども、これは、中期計画4年間の中で、令和7年度、府中市民病院の大きな投資、電子カルテの更新がありましたので、その影響もあって令和7年度では若干長期借入金が増えましたという数字になっております。

ページをめくっていただいて、最後なんですけども、実は法人にはもう一つ借入金がありまして、表題が『移行前地方債償還債務の明細』ということで、これは法人設立前の府中北市民病院が府中市の直営市立病院だったときの借入金、長期借入金を法人が引き継いでいますので、その返済をずっと続けて参りました。これについてはもう増えることはないもので、真ん中の当期減少額1億1,000万余り、これをずっと毎年度払い続けてきております。右の期末残高を見ていくとあと残り3億4,500万余りということで、あと3年は1億1,000万余りの償還を進めればほぼ完済の見込みが見えてきたということで、説明を終わらせていただきたいと思います。

~~~~~

内藤委員長： はい、ありがとうございました。続いて事務局から、市の評価案について説明してください。

宮原課長： それでは、資料3になりますが、こちらを御覧ください。説明に入る前に、資料の訂正がございますので、こちらの方をお伝えしたいと思います。

資料3の3ページの中期目標に定める事項ごとの評価のところを、6行目になりますけれども「目標値を下回ったとはいえ」というところがございます。そのあと「平成29年度以来の病床稼働率80%」という記載が、こちらに誤りがありましたので、「2年連続の病床利用率80%」という形に修正をさせていただきます。併せまして、資料4の1ページに、評価の欄にも同様の記載がございますので、こちらの方も訂正をお願いいたします。

それでは、資料3、評価案につきまして要点を絞って説明をさせていただきます。

まず2ページ目のところですが、総合的な評定のところ、令和7年度の事業報告に対する総括的・全体的な評価意見を記載しております。

まず、経営状況の面につきましては、物価高騰への対応など、公立病院を取り巻く環境は依然として厳しい状況ですが、そんな中でも、病院機構では、入院収益の確保や経費の縮減などにより、令和7年度、約5,584万円の黒字決算となり、債務超過の解消が進んだことから、経営努力の結果として、市も高く評価をしております。ただ、黒字決算ではあるものの、国や市の補助金がなければ赤字決算ということもあり得る状況であったということ、それから物価高騰や経費上昇は今後も継続の見込みであるということから、引き続き医業収益の増加策を講じるなど一層の経営の安定化を図る必要があると考えております。

続いて、医療機能面におきましては、常勤医師の退職があった診療科でも医師の確保をするなど両病院で診療体制が維持できておりまして、医療提供体制の維持充実に重要な役割を果たしているという評価をしております。一方で、数値目標を下回った項目について要因の分析や実効性のある対策に触れられていないところもございますので、今後の改善を求めるものです。

なお、府中市民病院では、令和7年4月から本市の奨学制度による医師が勤務しております。若い医師の活躍により、収益面だけではない効果も感じているところでございます。市としましても、今後の医師育成奨学生の着任にも引き続き支援を行っていきたいと考えています。

続いて3ページ目のところになります。『中期計画に定める事項ごとの評価』ということで、こちら、参考資料3にあります第4次中期計画に定める項目ごとに評価を行っております。

まず、『住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項』において評価する点としましては、1点目、両病院は市内の救急告示病院としての役割を担ったこと、2点目として、市の保健事業への協力や健診、人間ドックの推進など市民の健康づくりの好循環に一定の貢献を果たしたこと、3点目としましては、府中市民病院は多様な患者の受け入れを実施したこと、また巡回診療を継続しへき地医療拠点病院としての役割を果たしていること、4点目としまして、府中北市民

病院では、地域唯一の一般病床を有する医療機関として救急医療及び診療科を継続し、外来入院患者の目標を達成したこと、また備北メディカルネットワークへの正式参加により一層の連携強化に取り組んでいることなどを挙げております。

一方で、改善を求める主な点としましては、1点目、府中市民病院における外来患者数や入院患者数、病床利用率などの指標で目標値に達しておらず、原因の分析や改善策の検討、2点目としまして、周産期医療に係る他の医療機関との連携の具体的検討などを挙げております。

続いて、『業務運営の改善及び効率化に関する事項』において評価する主な点としましては、1点目、湯が丘病院への職員派遣など地域全体での効率的な人材活用を行っている、2点目としまして、職員のワークライフバランス確保が進んでいる、3点目としまして、府中市民病院の外来患者満足度が高い、などを挙げております。

一方で改善を求める主な点としては、1点目、府中市民病院では、情報発信が不十分であり利用者が求める情報が届くような取り組みを進めること、2点目、府中北市民病院では満足度調査が未実施であること、3点目、サイバーセキュリティ対策を一層強化すること、などを挙げております。

続いて、『財務内容の改善に関する事項』、それから『その他業務運営に関する重要事項』、さらに『予算、収支計画及び資金計画』において評価する点としましては、1点目、物価高騰などによる医療費費用の増加が続く中で単年黒字を達成したこと、2点目として、常勤医師の退職の影響を最小限に抑えるための医師確保に取り組んだこと、などを挙げております。

一方で改善を求める主な点としましては、1点目、経営収支比率・医療収支比率・修正医業収支比率が目標値を達成できていないこと、そして2点目として、引き続きキャッシュフローを意識した運営を行い、まずは債務超過の完全な解消を目指すとともに最終的な累積欠損金の解消に向けた努力が必要、としております。

これ以降の項目につきましては、特筆すべき点や該当する取組がなかったことから、評価については割愛をさせていただきます。

なお、その評価項目ごとの詳細な内容につきましては次の資料4に取りまとめておりますので、こちらを御一読いただければと思います。以上です。

~~~~~

内藤委員長： ありがとうございます。それでは、令和7年度の病院機構の業務実績や市の評価について、委員の皆様から御意見をいただきたいと思います。御意見、ありますでしょうか。

石村委員： 我々も県立病院機構につきまして、昨年ようやく1年目が終わりました、先週に評価委員会で評価について議論をしたところでございます。病院の方の立ち位置と、行政の立ち位置のところの目線とかで求めるところについて、耳が痛いと

というか、そうだなあと思いながら聞いていました。そういう意味で、私も今回評価委員としての立場なので、総論といたしましては、昨年度の取組は、この地域の特性とか医療スタッフの体制など考えますと、本当に精一杯やっておられるなど。そういった取り組みについては、やはり非常に評価できる部分があると思っております。

特に医療機能のところで言いますと、整形外科のところはかなり伸びておられるということで、これは先生の頑張りだと思いますが、素晴らしいことだと思います。ただ内科が、やはりメインの診療科ということで、収益のボリュームも見ますと、ここをいかに踏ん張ってというところですけども、ここをどのように上げていくかということがポイントになるのかなと思っております。

ただ、医療機能で言いますと、先ほどサ高住の話など、急性期から保健事業が、幅広くやっているんですけども、数字のところで、急性期の部分や救急車とか手術件数の部分がやはり苦勞されていると。ここも、やはり地域の中で果たす役割として、特に救急の部分とかなかなか難しい面もあると思うんですけども、その部分を、評価の中にもありましたけど、やはりこの目標と結果の乖離というところを、なぜかということをついやるような因数分解をしながら見ていくというのが大事かなと思います。

おそらく目標を立てた時の根拠というのを一定持たれたと思うので、その時との想定がどうずれてきたかっていうのは、行政の立場から言うと、やはりそこは示してもらわないといけないと言われることはよく分かるなどと思っております。どうしても評価としては、数値の指標のところを見ながら指標を達成していないかいるかで見ると、このような評価が妥当ではないかと思えます。ただ気持ちとしては、大変病院機構の病院スタッフの皆さんも頑張っておられているので、そこはきちんと評価されていますので、私としてはこの評価で妥当でないかと思っております。以上です。

内藤委員長： ありがとうございます。病院機構の方、何かあれば。

多田理事長： いろいろ反省しないといけないことや検討しないといけないことは多々あるかと思えます。特に、先ほど指摘ありましたように、内科の業績について、人数が、先ほど常勤数を出したように、10年前も今も5人で、途中一時7人くらいは増えた時期もあるのですが、そういう状況で、もう少し効率的に、またワークシェアをしながら業績を上げていきたいなどと思っております。

また救急につきましても、もう少し受け入れる余地を作って、1例でも2例でも受け入れる仕組みをつくっていくなど、そういったことも含めて検討していきたいと思えます。

内藤委員長： ありがとうございます。救急はなかなか厳しいところもあると思うの

ですけど、結構最近は誤嚥性肺炎の方も多かったです。そういったところも積極的に診ていただければありがたいかなと思います。

他に意見はございますでしょうか。

安達委員： 詳細な報告、ありがとうございました。市の評価にもありましたように、人件費が高くなったり材料費が上がっている中で非常に堅調に推移されまして、地域に大きく貢献されているということがよく分かりました。特に私は、バックグラウンドが整形外科なので、整形の収入が非常にグラフで上がっているということで、1名増えただけでこんなに変わるのかなと驚きました。この方は奨学金貸与の医師ということで、若い先生はかなり積極的に手術とか外来をされた結果だとは思ったのですが、まずはこの医師がどのくらいおられるのかと。今後このような奨学金貸与の医師がどのくらいいるのか。奨学金制度の医師が次々とローテーションしながら勤務していただけるといいんじゃないかと思う。

人口は徐々に減少するけれども、高齢者人口は比較的まだ多いということで、内科もそうですけど整形の需要というのも非常にまだまだあると思うので、引き続き奨学金制度を使われている人が入ってこられるのかが気になりました。

あと、グラフで内科の収入とか整形の収入を見せていただきましたけど、ここがメインなところからこの2つの科が出されたのではないかと思います。他の科がどうなのかは少し気になりました。最終的な決算は黒字になられたということで、素晴らしい。去年に引き続きということですし、市からの繰入金があつての黒字ということなので、ますますの経営改善は必要だろうと思いました。

あと、やっぱり医師の確保は大学との連携がすごく重要なので、岡山大学と広島大学と、今も密に連携させていただいていますけども、引き続きよろしくお願いしたいと思います。以上です。

内藤委員長： ありがとうございました。

多田理事長： 整形外科のドクターにつきましては、できるだけ長くいていただきたいのですが、本人がいろんなところでの経験を積みたいという気持ちもあります。何年かしたらどこかに勉強に行ってまた戻ってきてと、義務年限としては奨学金の貸与期間ということではあるのですが、それを超えて地域に根差していただければと思っております。

また、他にも奨学金制度の医師もいらっしゃいますが、科は様々で、まだ学生もいらっしゃいます。整形外科の維持については非常に不安は大きいところではありますが、彼らが非常にアクティブにやっているのを見て、いいなと思って来てもらえる方が一人でもあればというふうに思っております。

宮原課長： 今後の奨学生に関しまして、現在、専門医研修が1名、それから臨床研修が1名、それから大学5年生が1名の合計3名が奨学金制度を利用しています。

今後も繋がりを保ちながら、府中市での勤務をしていただけるよう取り組んでいきたいと考えております。以上です。

内藤委員長： ありがとうございます。奨学金を受けて勤務してくださる先生が専門医を取ってその後に戻ってきてくれるような病院になっていただければと思います。ぜひ、頑張ってください。

荻野市長： 奨学金制度の医師の御活躍もあると思いますけれども、やっぱり大きいのは2名が3名になったという、医師の確保ができたということが非常に大きいところがあって、理事長からもありましたように、手術数が増えたということが非常に大きいと思っております。そういう意味では、冒頭に私が申し上げましたけれども、広島大学や岡山大学からの医師の派遣が非常にこの病院機構にとって非常に大きいということでございます。引き続きの医師の確保についての御支援をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

石原副委員長： 私も、やはり令和7年度は整形外科の収入の増加というのはすごく特徴的でありまして、このグラフを拝見しますと2億ぐらい収入が伸びるということで、前年度が2億数千万円ですから、それが倍ほどはいきませんがかなり伸びております。一方、資料4の説明資料の中に患者数の人数の表があります。2ページのところですけど、これを見ますと整形外科の受診者数というのは、令和6年が1万7,052人、令和7年度が1万8,416人ということで、1,400人くらい増えていると。それぐらいの人数の増加でも、やはりドクターの人数が、一人増加をなさって手術がたくさん出来るようになるとこれぐらい収入が増えるというのは、驚きという印象です。

それからもう一つ、患者満足度の調査をされているところで、資料2のところの12ページのところに、府中市民病院において、患者満足度の外来のパーセンテージが98という、ほとんど満足という結果になっていて、これについて何か要因というものがあったら教えていただきたいです。

八幡事務長： スタッフがみんな頑張ってくれているのだろーと思いますけど、待ち時間のことで非常に苦言を呈していただくことが多いですけれども、ここはずっと続いておりましたので、今何時ぐらいの予約の患者さんと呼んでますいうことを、各診療の外にボードを掲示させていただいたり、患者さんが今の状況について分かりやすくできる様に務めております。

アンケートを見てみると、各部門のスタッフに対する満足度の方も非常に昨年は高い評価をいただいておりますので、今年度の満足度調査をしているところですので、それが継続できればいいなと思い、取り組んでいます。以上です。

内藤委員長： ありがとうございます。整形外科の伸びが凄いのは、手術件数がぐっと増えたことなんでしょう。

多田理事長： はい、手術件数です。人数が増えたということもありますし、心不全を合併されている高齢の方の手術についても、循環器の強いドクターが配置され、これまで他院へ移していた患者が院内で手術できるという面もかなりあるかと思います。

内藤委員長： ありがとうございます。私の方からも質問で、備北メディカルネットワークに参加して、何か具体的な支援がということはあるのでしょうか。

小森事務局長： 事業報告書の中にも触れているんですけど、まだ大きな連携というか取組は進んでいなくて、令和7年度にあったのは、透析に関わる臨床工学技士の人事交流ということで、3病院による人事交流ということで、三次中央病院・三次医療センター・そして北市民病院の職員。臨床工学技士ですけど、透析に係る業務の標準化というか、そんなところを目的に2カ月にわたって人事交流をしたという実績はあります。まだその程度に留まっているところです。

内藤委員長： ありがとうございます。せっかくネットワークに入られたので、できるだけそれを活かすようなことができればいいかと思います。だんだん医師の高齢化があるんだと思うので、今後が、かなりどうするかが課題になってこようと思うんですけど、その辺は何かありますでしょうか。

多田理事長： 特に決めていることはないですが、岡山大学、そして広島大学にも足を運んで、特にふるさと枠の医師については今回初めて北市民病院の派遣があったということであります。また、府中市民病院の方でも来ていただければ、主戦力として来ていただけるだけでなく、御本人も地域ならではの経験を積んで、せっかく来てくださる以上、少しでも勉強になるようなプログラムを用意しておりますので、まずふるさと枠の先生に来ていただきたいなと考えているところであります。

内藤委員長： 北市民病院が、今、なかなか黒字になりにくいのかなと思うのですが、収益を上げるためには何かこういうことができればいいな、などありますでしょうか。

小森事務局長： 令和7年度の経営成績は、北市民病院の医業収益の減収分を府中市民病院の医業収益の増収分で賄っていただいたというところで、北市民病院については、これから先も医業収益が伸びるということは想定していなくて、医業収益が増えない中で医業収益に見合う医業費用をどういう風に取り組んでくかというところで、守りの方の取組の方が大きくなっておりますので、厳しい状況です。

内藤委員長： 訪問診療をされているということなんですけども、具体的にどういう形でされているか教えてください。

小森事務局長： 訪問診療は、医師と看護師が利用者のお宅へ直接行って、診療をして帰るということなんですけども、定期的に。

内藤委員長： 何人ぐらいかな。

小森事務局長： 何人くらいかな。11 ページに総数あります。訪問診療件数ということ  
とで、府中北市民病院は、計画では 250 でしたけども、実績は 197 に留まりました。

内藤委員長： これ年間の数字ですか。

小森事務局長： はい。

内藤委員長： 今の外来は、なかなか待っているだけでは、患者が来てくれないので、  
出ていくことを考えていかないといけないのですが、その辺はどうお考えですか。

小森事務局長： 出ていきたくても、在宅の患者さん自体が上下地域は減っていつて  
いるという感じですね。なので、訪問診療に限らず、訪問看護とか訪問介護などの  
利用者がどんどん減っている。在宅での生活されている患者さんが、施設に入られ  
たり高齢でお亡くなりになったりということで徐々に減っている現状です。

内藤委員長： なかなか厳しい状況ですね。人口減少がかなり効いてきているという  
気がいたします。ほかに御意見がございますか。

八幡事務長： 府中市民病院の八幡と申します。よろしく願いいたします。整形外科  
の外来患者数について先ほどお話をいただいたかと思うのですが、昨年度から骨  
粗鬆症の治療を積極的に開始いたしました。市民公開講座、それから認定ナースの  
方も 2 名ほど養成いたしまして、こちらの方を積極的に取り組ませていただいております。  
こういったところで外来の患者さんが増えております。もちろんドクター  
の方も 3 名体制になりましたので、今まで 1 日 1 名体制、一診で行ってきたんです  
けど、2 診で外来を取れている日も出てきて、週に 2 日ほど出ておりますので、そ  
ういったようなところの影響で患者数の方が増えているというような状況でござい  
ます。以上でございます。

内藤委員長： ありがとうございます。ほかに御意見ございませんでしょうか。

今まで委員の皆様から、かなり頑張ってやっていると、2 年連続して黒字化したと  
いうのは、繰入金があるにしても、公立病院が赤字のところが多い中、頑張ってお  
られると思います。そういったところも市も勘案していただければと思います。

これらの意見を踏まえまして、令和 7 年度業務実績評価のとりまとめを行って  
いただき、最終的な評価結果については改めて各委員にお示しいただけますようお願い  
いたします。

~~~~~

内藤委員長： 続いて、『(2) 報告事項』について議題といたします。

令和 8 年度年度計画について、事務局から説明をお願いします。

宮原課長： それでは、資料 5 の『令和 8 年度 年度計画』を御覧ください。事前に
資料を送付させていただいておりますので、詳細については、割愛させていただきます
ますが、この年度計画に基づいて令和 8 年度の病院運営等が進められています。以
上です。

内藤委員長： ありがとうございます。この件につきまして、何か御意見はございますでしょうか。

石村委員： 教えていただきたいことがありまして、年度計画の中で数字が出てまして、例えば、患者数とか収益というのはあるんですけど、おそらく医業収益というのは人数を掛けたんかなということになるんですけども、例えば入院単価とか外来単価見込みの考え方、これについて、例えば診療報酬改定があつて6月から診療報酬が上がってますけど、その部分で、例えば急性期部分がどうなのか、地ケアの部分はどうなのか、そういったところの見込み、興味があるところなので、そういったところを見込んで計画を立てられたとかあれば教えていただければと思います。

小森事務局長： 結論だけ言いますと、各年度計画をつくるのに積上げて計画をしているわけではなくて、単年度計画のもとになるのは中期計画、4年間の中期計画を立てた時の医業収益、入院単価、入院患者数、外来単価、外来患者数をベースに、中期計画で立てた収支計画、各年度の収支計画を目標にすれば中期計画の期間の黒字化が達成される、そこを目標にしています。なので、ざっくり言うと、中期計画で立てた収支計画を達成するために、微調整をしながら年度計画をつくっています。なので、細かな積上げ形式の計画にはなっておりません。ベースになっているのは、中期計画です。

石村委員： 中期計画の際には、単価の積み上げとかはされているのでしょうか。

小森事務局長： もちろんしています。中期計画の時は、それぞれ入院単価を設定して、それぞれの年度の患者数の推移も推計して収支計画を立てております。

石村委員： 大体どのくらい入院単価を。

小森事務局長： 手元に資料がないので分かりません。

内藤委員長： よろしいでしょうか。ほかに御意見ございますでしょうか。特にございませんか。

それでは、以上で本日の議題はすべて終了いたしましたけれども、委員の皆様からほかに何か御意見がございますでしょうか。よろしいでしょうか。ないようでございますので、進行を事務局へお返しいたします。

~~~~~

部長： 内藤委員長、ありがとうございました。前田委員から御意見を伺う機会がございましたので、また書面にて御意見を伺うというふうに考えております。よろしくお願いいたします。また、委員の皆様におかれましても、本日いろんな御意見をいただきまして、誠にありがとうございます。

最後に石原副委員長から閉会に当たっての御挨拶をいただきたいと思います。

石原副委員長： 皆さん、お疲れさまでした。やはり府中市病院機構、こちらが組織としてなくなりますと府中市に入院施設が少なくなるというようなことがございま

す。やはり地域にとって非常にこの病院というものがなくてはならない存在になっておりますので、引き続きぜひよろしくお願いしたいと思いますので、今回の2年連続の黒字というようなことは、皆さん、病院スタッフの方、先生をはじめとする皆様の御努力の結果というふうに思います。なかなか、いろんな方がおっしゃるように、物価が上がる、それから特に人件費が年々上がってまいります。こういう中で、患者さんが高齢化、またその人数の減少ということがある中で、黒字を残されるというものは非常に敬意を表するべきだと思います。繰り返しになりますが、整形外科のドクター着任ということで収益が過去最高になるというようなことで、医療ニーズというものは確実に府中市にあるんだと思います。体制が整えさえすれば、病院としては機能を十分発揮することができる地域だと思いますので、引き続きドクターの確保ということに市を挙げて取り組んでいただいて、府中市の医療機能の確保にご努力いただければと思っております。

本日は、皆様大変お世話になりました。ありがとうございます。今後とも引き続きよろしくお願いいたします。

部長： 石原副委員長ありがとうございました。それでは、以上をもちまして、令和8年度地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会を閉会とさせていただきます。今後も引き続き、府中市の医療、また府中市病院機構への御支援をよろしくお願いいたします。評価委員の皆様本当にありがとうございました。以上であります。

20時15分 終了

~~~~~